

蔣公作戰日誌

第九師團

自昭和十三年九月

上海—南京

1137

自昭和十二年九月二十日
至昭和十三年十二月十三日
(上海—南京)

機密作戰日誌

陸軍

1138

4

九月五日

海防積

師團攻撃準備ニ就テ

堅固ナル陣地ニ對シ軍ハ遭

過戦ニ於ケル逐次戦團加入ノ

要領ニ依リ戦團ヲ指導ス

作戰主任参謀ト軍務一課

長トノ協議ニ於テ軍ハ二十

九日攻撃ヲ主張シ師團ハ

十月三、四日以降ヲ主張シ

議給一特間餘ニシテ十月一

日ト決定セリ

師團ノ主張セル理由左ノ如シ

一、師團ハ逐次上陸中ニシテ全

兵力ヲ集結シ後方ノ補給

ヲ確立シ前進シ得ルハ早クモ

陸軍

五日以降ナリ
 待ニ山砲兵一大隊ノ戰場到
 著ハ三十日ニシテ全縣隊ノ
 到着ハ二日ナリ
 果固ナル陣地ノ攻撃ニ對シ
 急襲戦法ヲ實施スル爲ニ
 ハ全砲兵ノ到着ヲ絶對ニ
 要トシ且輜重ヲ有スルヲ
 要ス
 一師團ハ遂次上陸後傳染疾
 流行地ニ所ニ給水共ニ不
 便ナル地ニ集結セザルニカ
 ス之カ爲ニハ相當ノ輸送力
 ヲ要シ際急ノ攻襲ハ不可能

ナリ

三、師團ハ緒戦ナリ、緒戦ニ於テ
 ハ最大ノ効果ヲ收ムレヲ必要
 トス之カ爲ニハ準備不十分
 ナル攻撃ハ多大ノ犠牲ヲ出シ
 萬一攻撃頓挫セムカ爾後
 ノ作戦ニ甚大ノ影響ヲ及ス
 ニ至ルノ危険アリ

四、全般ノ情況ヲ判断スルニ現
 下ノ状況ハ軍ノ躁急ナル
 攻撃ヲ必要トセス新ニ増
 加セラレシ三ヶ師團其他
 軍直轄部隊ヲシテ十分ナ
 ル準備ノ下ニ一舉殲滅

戦ヲ企圖スハキ状況ニレ
テ遭遇戦ノ逐次加入ノ要
領ニヨリ際巻ニ攻撃ヲ資
施スハキ状況ニ非ス
十日一日ニ讓歩セレハ山砲兵
大隊ノ到着ノ爲第一線ノ戦斗
可能ノ極限ナリ
前起協定ニ基キ師團八直ニ
作命甲第二號ヲ下達シ際
巻ニ諸準備ヲ資施ス

九月三日
松澤參謀正午上軍依命申第一〇四
號ヲ受領シ來ル
養家次
師團ノ任務左ノ如シ

第九師團(第十六師團第十野戰
高射砲隊ヲ屬ス)ハ九月二十九日
午後ヨリ行動ヲ開始シ逐次到
著スル部隊ヲ以テ第三師團右
翼方面ノ部隊ト交代シ當面
ノ敵ヲ撃破シ先ツ吳家橋、沈
家宅附近ノ線ニ進出スヘシ
作戰地域内ニ於ケル第三師團
部隊トノ交代ニ関シテハ直接

同師團長ト協定實施ス(シ)
即チ師團ハ本命令ト依テ二十八日
軍第一師團長ト師團役戰主任參
謀トノ協議決定ニ基キ一日攻
撃前進ヲ開始スヘク九師團命
甲第三號(突襲ノ分)ヲ下達ス
然ルニ師團長軍司令官ヲ訪問
(移動途中)セシ際軍參謀長ハ
第九師團ハ十分ニ準備ヲ整ヘ前
進セラレ度攻撃開始ハ何日ニテ
モ可差支ヘナシト述フ
即チ師團ハ先キニ一師ニ下達セ

シ第三號ヲ廃棄シ新ニ九師作
 命甲第三號ヲ下達シ十月二月
 攻撃ヲ開始スヘク攻軍準備ス
 關スル命令ヲ下達ス
 一、二日前進ヲ開始スルノ理由
 砲兵隊並工兵隊ノ上陸進捗
 シ一方軍ノ進出線ハ短距離
 ナルノミナラス第三師團ノ
 攻撃進捗セルヲ以テナリ
 二、重點ヲ右翼ニ保持スル理由
 第三師團ハ左翼隊正面ノ
 全戦鬪地域ニ重點ヲ指

										向レ夫代不能ナルニヨル

1147

青島

右翼隊ヨリ糧之重砲兵隊ノ處
獲セル南京附近空中窺真ヲ送付

宋方終

シ來ル

該窺真ニ依レハ中山門以西ノ壕
ハ幅一五〇米―三五〇米ニシテ當時使
用シアリシ地圖ト全然相違シ

アレヲ発見ス

即チ斯クノ如キ水壕ヲ有スル城

壁攻撃ハ十分ナル準備ノ下ニ正

攻法ニ依ルニアラサレハ攻撃至難

ナルヲ認メ先ツ右翼隊ノ意向ヲ

聞ク悉ルニ右翼隊副官黒須中

佐ハ自信ヲ以テ明朝城壁ヲ奪取

スト答フ

當時紫金山、雨下台共ニ我手ニ期
 シ昨日起、極威ヲ逞シウセル南京
 敵高射砲ハ全ク影ヲ潜メ全機ノ
 敵又昨日ニ比シ殆澆ナラス敵ハ本
 夜退却ヲナスニ兆サルヤトノ懸念
 大ナルモノアリ
 即チ正攻ヲ保留シ右翼隊ノ攻撃
 ヲ是認シ且兩翼隊ニ敵退却ノ
 徴アル旨ヲ述ヘ其機ヲ失セサラム
 事ヲ要求スル所アリ
 午後三時右翼隊ヨリ電話アリ曰ク
 第十六師團ノ歩兵第三十聯隊ハ
 黎明中山門南側ノ破壊口ヲ
 利用シテ突撃スト云フ師團ヨリ

陸軍

然ル可ク奏置セラレ度ト
作戦地境問題ハ既ニ十日第一師
長参謀長間ニ協議成立シ決定
済ノモノナリ即チ作戦主任参謀
ハ軍ノ川上参謀ニ電話シ第十
大師團ノ不法ヲ告ク善處ヲ要
望ス

1151

陸軍

青島

晴

山下橋

午前六時右翼隊ハ敵ノ大ナル抵抗
 ヲ受クルコトナク中山門一帯ハ城
 壁ヲ占領ス
 第十六師團ハ午前三時半中山門
 ヲ占領セリトノ軍通報アリシモ何
 等ノ形跡ナレ恐ヨク中山門後ノ誤
 ナリシナラム
 エヨリ先キ後方主任参謀ハ軍命
 令ノ如何ニ拘ラス一舉揚子江ノ線
 ニ進撃スヘシト提案シ全幕僚
 本之ニ同意シ軍ノ諒解ヲ得アリ
 レモ海軍ハ既ニ鎮江ノ水中不陸
 得ヲ除去シ揚子江レ第十六師團ハ南
 東西方地區ニ進出中ニシテ第十六

師團ノ一部又下関ニ迫リツツアリ
 トノ情報アリシヲ以テ城内飛行
 場西側ヲシテ引續キ中内ノ橋
 右翼隊ヲシテ引續キ中内ノ橋
 蕩ヲ實施セシメ狀況ニ依リ師團
 主力ヲ以テ追撃シ得ル如ク準備
 スル所アリ
 間モ無ク川上參謀ヨリ電話アリ
 曰ク
 敵残兵四一五〇〇軍司令部ノ近傍
 ニ現出セリ約一大隊ノ派遣ヲ乞
 フト即チ大隊長ノ率ユルニ中
 隊ト戦車(小隊ヲ派遣スル事ニ
 セリ然ルニ更ニ大隊參謀ヨリ

敵ハ三〇〇ヲ下ラス 後備中隊
 ハ全滅ニ類シアリトノ通報ニ接
 ス
 即チ右翼隊ヨリ歩兵第十九聯隊
 ヲ抽出シ該隊長ノ指揮スル歩
 兵三大隊 砲兵一大隊 工兵一小
 隊ヲ急派ス

參謀長ハ性格上個人的ニ歩兵第十八旅團長ニ心好カラサル點アリ
 此ノ反影ハ幸ト作戰ノ成果ニハ窳口好結果(迅速ナル南京突
 進)トシテ現レタルモ作戰主任ノ兵力部署ノ考案ニ大ナル制肘ヲ
 加ヘタルノミナラス電話等ノ應答ニ於テ旅團長ヲシテ極メテ不
 愉快裏ニ戰鬥ヲ指導スルニ至ラシメタリ
 又進撃ニ於ケル參謀長ノ態度ハ極メテ消極ニシテ作戰主
 任ノ放膽ナル考案ヲ控制シ師團長ノ追撃戰鬥ヲ消極
 ニ陥ラシメシトセシ事一再ニシテ止マラス 例ヘハ

崑山蘇州間ノ地狹ニ於ケル敵陣地ノ強度ヲ愧惧シ任務ヲ放
棄シテ常熟ニ迂回セムトシ強硬ナル作戦主任ノ反對ヲ受ケタル
カ如キ或ハ蘇州常州ヨリノ追撃ヲ前進ヲ遷延セムトセシカ如
キ之ナリ

師團長

1155

九師作命甲第三號(廢棄ノ分)

第九師團命令

九月十九日午後三時
於上海海防

敵情並ニ友軍ノ狀況ニ關シテハ六ナル變化ヲ見
ス

軍ハ重點ヲ寶山城―揚行鎮―劉家行道方面

ニ保持シ劉家行顧家宅附近ノ敵ヲ撃破シ大

場鎮附近ニ對スル攻撃ヲ準備ス

隣接師團ノ企圖ニ關シテハ後報ス

二師團(第十野戰高射砲隊ヲ屬セラレ)ハ陳家宅

(劉家行西北側)ヨリ李家宅(陳家宅北方約二

料)附近ニ互ル間ノ敵ヲ撃破シ先ツ陳家宅

吳家橋ノ線ニ進出シ爾後ノ攻撃ヲ準備セン

トス

攻撃ノ重點ハ左翼隊方面トス

三 歩兵第十八旅團(歩三六欠)右翼隊

歩兵第六旅團(歩三五欠)左翼隊

兩翼隊ハ十月一日拂曉迄ニ概テ吳淞クリーク

ノ線ニ攻撃ヲ準備シ當面ノ敵ヲ攻撃シ陳家

宅吳家橋ノ線ニ進出スヘシ

第三師團トノ交代ハ三十日拂曉迄ニ之ヲ完了

スヘシ

攻撃前進ノ時機ハ後命ス

四 隣接師團トノ作戰地境並ニ兩翼隊ノ戦闘地境

別紙要圖ノ如シ

五 山砲兵第九聯隊ハ十月一日拂曉迄ニ一部ヲ以テ

姚家宅(李家宅東方約一料)附近主カヲ以テ唐家

浜(陳家宅東北約ハ〇〇)王殷宅(唐家浜北方約一

料)ノ地域ニ陣地ヲ占領シ一部ヲ以テ右翼隊

主力ヲ以テ左翼隊ノ攻撃ニ協力シ得ルノ準備ニ在ルヘシ

六、野戰高射砲隊ハ揚行鎮西北端ニ到リ後命ヲ待ツヘシ

七、師團通信隊ハ成ルヘク速ニ峯家浜(除家村西北側)師團司令部ヲ基點トシ兩翼隊砲兵

隊歩兵第三十五聯隊歩兵第三十六聯隊間ニ通信網ヲ構成シ其連絡ニ任スヘシ

八、衛生隊ハ十月一日拂曉迄ニ一部ヲ以テ蔡等宅ニ繃帶所ヲ開設スヘシ

九、爾餘ノ諸隊ハ上陸ト共ニ先ツ逐次別ニ指示スル位置ニ其兵力ヲ集結スヘシ

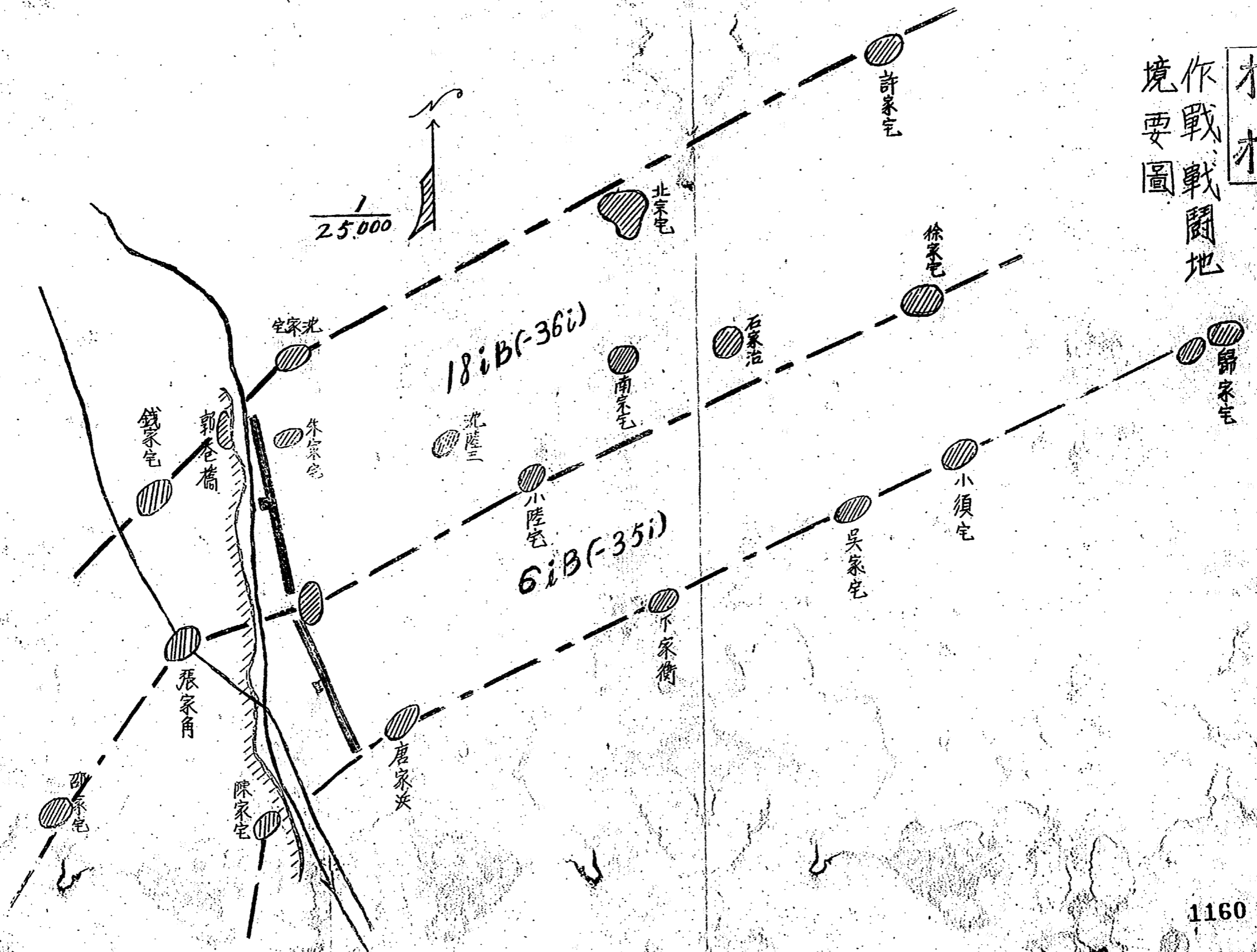
十、大行李糧秣ノ補充ハ在吳淞野戰衣糧廠ヨリ直接補給スヘシ

十一、予ハ二十九日夜先ツ恙家決ニ位置ス
三十日正午該地ニ命令受領者ヲ差出スヘシ

第九師團長 中將 吉住良輔

1159

極秘
作戰戰鬥地
境要圖



1160

不
平
墨
美家決

郎團八一日攻撃ヲ準備ス

1161

1162

十月一日
曇
米家浜

右翼隊ノI/96 (長西島少佐)ハ糧断
郭巷橋ノ敵陣地ヲ突破引續
キ李家宅ノ敵ヲ攻撃ス
左大隊又攻撃ニ前進ス
當時第三師團ハ表家角ノ一角
ヲ奪取シアリ。即チ電話ヲ以テ
爾後輕率ノ前進ヲ戒ム
前進ヲ拘束セシ理由左ノ如シ
一 郭家橋ヲ奪取セルハ爾後ノ渡
河作戰ニ極メテ有利ナルモ渡
河材料ノ整備其他攻撃ノ準備
十分ナラス本一日攻軍ヲ

1163

準備スルヲ可トス
 2. フクリクノ陣地線ハ堅固ニシ
 テ第三師團ハ旬日ニ亙リ攻
 撃ヲ續行中ナルモ漸ク張
 家角ノ一角ヲ奪取セルニ過
 キス
 師團ハ戦力ヲナルハク集結
 シ攻撃スル爲メニハ慎重ヲ要
 ス
 間モナク張家角ニ條實線路ノ
 線ニ進出セルノ報ニ接ス
 即チ吳家橋陳家宅ノ線ニ攻撃

前進ヲ命ス
 理由左ノ如シ
 二條實線路ノ線迄短時間ニ
 前進シ得タル現況ニ於テ即
 圍進出線迄ノ進出ハ容易ナ
 リト判断セルニ依ル
 第三師團ノ右翼朱宅ニ前進シ
 中心部方向ニ前進スルノ報ニ接
 シ第三師團ト作戰主任相互協議
 ノ結果明朝迄ニ瓊東角、老墻宅
 ノ線以西ノ第三師團部隊ヲ解
 放スル如ク協定セリ

ス此ノ日第一線ハ吳康橋ヲ占領

1166

十月二日

邸園ハ明三日概ニ現在線ニ於テ

曇 陳家街(17027) 載家巷(89000)ノ線ニ向

載家巷 ツテスル前進ヲ準備スルニ決シ命

令ヲ下達ス

明一日準備ヲスル理由

ノ補給関係ハ明日ヨリスル前進

極メテ困難ナリ。輜重ハ未ダ到

著セス各部隊ハ其大行李ヲ

以テ吳淞ヨリ補給セサルハカラ

ス。馬匹疲勞シ駄載量半減セ

ルノ状況ニシテ所モ作戦資材

ノ運搬ニ萬全ノ努力ヲ傾注

レアルモ意ノ如クナラス
軍ヨリ配給ヲ受クヘキコクリ
ノ渡河材料ハ明一日ヲ費ササ
レハ第一線ニ配給シ得ス
交通路ノ設備又明一日ヲ費
要スルノ状況ナリ
此ノ線ヨリノ前進ハ徒ラニ企
圖ヲ暴露ス即チ推進力ヲ
有セスレテ師團カ南面スル
時ハ企圖ヲ暴露シ殲滅戦
ヲ不能ニ陥ラシム
此夜爾後ノ攻撃ニ関シ重點ノ指向

ニ就キ研究ス
参謀長以下幕僚全員ノ意
見ハ師團ノ任務上有翼ニ強
壓ヲ加ハツツ重點ヲ左方ニ保持
シツツ一舉陳兼行(含マス)以
東ノ陣地ヲ突破スルヲ可トスノ
意見ニ一致ス
其理由左ノ如シ
全敵ノ状況ハ急速ナル突破ヲ要
トス
右翼ニ重點ヲ保持スル時ハ堅固
ナル廣福陣地南北ノ敵陣地

ニ衝突シシカ攻略ニハ時則ヲ
要シ時機ヲ失スルノ危険大ナリ
若シ大カ爲メ軍重點タル第三師
團ノ攻撃ヲ切捨若クハ遅後セシ
ムルカ如キ状態ニ陥ラシムル時ハ
助攻兵團トシテ重大ナル責任
ヲ感セサルヘカラス
又縦ヒ突破ニ成功スルモ敵ハ各
方面ヨリ兵力ヲ集中シ突破ヲ
局限スルニ努ムヘク、然ル時ハ強
大ナル第三線ヲ有セサル師團ハ
速ニ目的ヲ達成シ得サルニ至ルヘシ

重點兵團ノ攻撃ヲ容易ナラシム
ル爲ニ八師團ハ萬全ノ方策ヲ確
立セサルヘカラス。機関銃火道
撃砲火ノ有効射程内ニアル處願
南北ノ敵陣地ヲ側面ニ見テ南
下スルノ不利ハ十分之ヲ認ムル
モ本狀況ニ於テハ敢テ之ヲ忍ハ
サルヘカラスト云フニ在リ
然ルニ師團長ハ重點ヲ右方ニ保
持スル如ク裁決セテ其理由左
如シ
一 機関銃砲火ノ有効射程内ヲ

南下スルハ不可能ナリ
 二廣福附近ノ敵陣地ハ主力ヲ以テ
 セハスカ攻略ハ容易ナルハシ
 即チ之ニ基キ命令ヲ起案シ各部
 隊ニハ夫々敵陣地前ニ近迫シ攻
 撃ヲ準備スヘキヲ命ス

師團長ノ意見ハ右ノ如ク消極的ナルモノニアラス命令ニ示セル如ク廣福陣
 地攻略相當ノ困難性ハ之ヲ認ムルモ一旦之ヲ突破セムカ比較的ノ小ナル犠牲ヲ
 以テ敵陣地ヲ倒テ方ヨリ席捲シ瓦解ニ導キ得ヘク之ニ反シ主力ヲ右方ニ
 用フルハ最初ノ攻撃ハ容易ナルモ南方ニ進ムニ從ヒ攻撃力ヲ鈍ラシ師
 團將來ノ攻撃ヲ進歩ヲ困難ナラシムルニ至ル
 此ノ事ハ後日陳衆行ヲ攻撃セザルハカヲサルニ至リテ実証セシメタリ

(師團長)

陸軍

十月三日
 午前八時ヨリ廣瀬附近敵陣
 地ニ對シ陸海空軍ノ主力
 ヲ以テ爆撃ヲ實施ス
 午前十一時廣瀬附近ノ敵
 軍ヲ乱レテ退却中ナリト
 ノ通報ニ接シ直ニ攻撃
 ニ前進スルニ決シ命令ヲ
 下達ス
 然レニ戦況意ノ如ク進展
 セズ損害甚大ニレテ遂ニ攻撃
 頓挫ノ上ムナキニ至ル
 戦況進展セザリテ原因ヲ
 左ノ如ク判断ス
 一敵ノ陣地堅固ニレテ不十

分ナル準備ノ下ニ速急ニ
 レ攻撃ヲ實施セシ事
 一爆撃ノ成果ハ通敵ノ依ク
 大ナラザリシ事且之ヲ利用
 スルノ機速レタル爲ニ特飛
 隊セシ敵軍ニ陸地ニ據レ
 シ事
 此處ニ於テ參謀長以下幕
 僚全員、此際此處攻撃ヲ敢
 行スル時ハ從ラニ敵ニ牽制セラ
 レ勿攻兵團トシテノ任務達
 成不可能ニ招ルヘク特ニ
 支那軍ノ特徴トシテ攻
 勢多轉ハ考慮ノ必要ナ

キ點ヲカ説シ強硬ニ意見ヲ具申シ
 遂ニ其同意ヲ得タリ
 即チ師團ハ明拂燒（攀）陳家行、
 橋亭宅ノ敵陣地ヲ突破シ孟家宅
 塘北宅ノ線ニ進出スルニ決シ午後
 八時命令ヲ下達ス（作命申第九號）
 陳家行附近敵陣地攻撃ノ爲敵
 陣地前橋（ネ）五〇米ノ線ニ於テ前
 進ヲ統制スヘキヤ否ヤニ就中幕
 僚間ニ談論アリ
 作戰主任參謀ハ敵陣地ノ堅固ナ
 ルト右翼隊正面ニ協カス（キ）砲兵
 左翼隊正面ニ移ス爲メニハ其隊ヨリ
 ノ前進ハ別命スルヲ要ストシ

<p> 情報主任参謀ハ(拳)突破ノ精神上 之ヲ不要トストナス 参謀長ハ情報主任参謀ノ案ヲ採用ス 平等配備ノ理由空ノ如シ 一、本日ニ於ケル戰鬥部署ノ關係ト戦況 ノ状態ハ之ヲ抽出スル事困難ナリ 二、戰鬥正面ハ左翼隊ニ五六隊ヲ以テ十分ナリ 第一練部隊ノ大行李ヲ復カニ集結ス ル事ナク攻撃スル理由 一、給養其他戰鬥資材ノ運搬ニ便ナリ 二、出撃ノ顧慮ナク砲兵火力十分ナ ヲサル支那軍ニ對スル陣地攻 撃ニ於テハ案モ原則ノ如ク集 結スルヲ要セス </p>

十四日
曇
蔡家宅

左翼隊左聯隊ハ戦況逐次有利
ニ進展シ夕刻ニハ敵主陣地前
三四十米ノ線ニ近接シ突撃ヲ準備
ス、同右聯隊ハ楊家宅、魔
橋頭ノ敵頑強ナリト右翼隊
重傷ヲ命令ノ如ク左方ニ保持
セス依然吳家宅、新木橋ノ敵ヲ
攻撃セル無戦鬪ノ進捗意ノ如
クナラス夕刻後巷並陸家橋ノ
線ニ進出ス
右翼隊ハ逐ニ攻速頓挫セリ
夜右翼隊長ハ左ノ三家ヲ提出

レ命令ヲ受テ

第一案

依然現在ノ儘攻東ヲ續行ス
但レ之カ攻略ニハ二日ヲ要ス

第二案

兵力ヲ南方ニ移動シ重點ヲ
成ルハク南方ニ移レ左翼隊
ノ攻撃ヲ容易ナラシム

第三案

攻撃ヲ断念兵力ヲ集結シ

第二線兵團トナル

第三案ハ師團長トシテ命スル

ニ忍ヒス、第一案ハ師團ノ重點ニ
對シ速キニ失ス、第二案ハ既ニ
命令セル所ニシテ當然右翼
隊長ノ執ルヘキ策案ニシテ命
令スルノ範圍ニ非ス
即チ參謀ヲシテ師團長ノ意圖
ハ第二案ナル旨ヲ電誌ス
午前二時頃ニ至リ副官ヨリ命
令ニハ「突破」トアリ故ニ第二案
ヲ命令セラレ度ト云ヒ來ル
即チ作戰主任參謀ハ助攻方面
ノ攻襲ハ當面ノ敵ヲ突破シテ始

メテ助攻ノ任務ヲ達成スルニ在リ
突敵セントレ突敵不可能ナル場
合ハ已ムヲ得サルモ夫レニ依リ
當面ノ敵ニ強壓ヲ加フルヲ以テ助
攻ノ任務ヲ達成シ得ルハ原則ニ
非スヤ

旅團ニハ既ニ重點ヲ左翼ニ保持シ
ト命セラレアリ、何ノ必要アリテ
更ニ命令ヲ要スルヤ 旅團長ノ威
信ニ關スルヲ懼レトレテ其不要
ヲ説ク

此日左翼隊タル歩兵第三十五聯隊ハ

14
14
U

突撃ヲ決行セシモ速ニ文ヲ
接ク能ハス至近ノ距離ニ止リ
突ニ攻撃ヲ準備ス
然レ共左翼隊長ヨリハ何等
悲觀的報告ナク黙々ト
チ任務遂行ニ萬全ヲ策シ
ツツアリ

陸軍

1181

Table with multiple columns and rows, likely containing historical records or data. The content is heavily obscured by noise and artifacts, making it illegible.

1182

十月廿日

署

茶室宅

右翼隊長ヨリ電話アリ曰ク「第一師團左翼大部隊ハ北梅宅北側、
 查來宅ニ進出セリ。右翼隊長ハ
 兵力移動ノ為既ニ占領セル北
 梅宅、南梅宅、新木橋ヲ放棄シ
 ニ中隊、機関銃一小隊ヲ以テ
 白沼ヲ占領セルメシトスト
 作戰主任參謀ハ其適當ナ
 ラサルヲ告ケ師團長ニ報告
 強テ復退セシメントセハ命令
 ヲ以テ之ヲ確保セルムヘク具
 申シ其處可ク得、參謀ニ右翼
 隊長ハ參謀長ニ直接電話
 シ「更ニ之ヲ強要セルヲ以テ退

陸軍

又 二左ノ要旨ノ命令ヲ下達
 又 右翼隊長歩兵約半大隊
 北橋屯、南橋屯、新木
 橋ニ残置シ騎兵隊、泉
 長ノ指揮下ニ入ラシムハ
 本日ニ於ケルカ如キ状態ニ
 於テハ新クノ如キ最モ退固
 ナシ進入陣地ノ攻撃ニ對シ
 迎角附近ニ重點ヲ指向スハ
 中量ニ困難ナルカ及兵團ト
 シテ其效果ニ一歩ノ不十分
 不能ハス。加之東線行東西節

團務任正面ハ兩隊團ヲ併列
 スレノ地域十分ナラス特ニ
 機関銃ヲ配備セラルタル本
 狀況ニ於テハ益々其正面進
 トナル機アリ從テ右翼隊ヲ
 第二線部隊トスルモ其面目
 ヲ失墜スルノ恐ナキヲ以テ
 ヲ重疊シテ使用スルニ決シ
 後四時後命令第一十號ヲ下
 達ス
 攻撃開始ヲ明六日午後トセル
 理由
 一 陳象行東西ノ敵陣地ハ皇
 國ニシテ情勢發生任參謀第

一、敵ノ景況視察ノ結果ハ
 明日午後ニ選定スルヲ可トス
 トノ意見具申アリ
 二、右翼隊ハ新正面ノ敵ニ
 對シ新夕ニ攻撃ヲ準備
 セサルヘカクモ明拂燒ノ攻
 撃ハ困難ナルニ依ル
 軍并命シ進出線ヨリ前方ク
 リービ線ニ選定セル理由ノ要
 旨左ノ如シ
 一、突破ノ成果ヲ大ナラシムルニ
 ナラス走處考フクリービ線地
 ニ對スル攻撃準備ヲ容易ナ
 ラシム

陸軍

一、軍命令ニハ進出後速ニ敵情ヲ搜索スヘキ命令アリ
 突發ニ引續キクリークノ線ニ進出セハ威力搜索ノ成果ヲ收メ得ルノ利益アリ
 三、此線ニ進出スルモ軍ノ統制攻撃ヲ妨害スル事ナシ

1188